

# 『癒し』と身体 ——現代青年の身体観の視点から——

駒沢大学仏教経済研究所 薩佐久仁子

key words 「癒し」, 「現代青年」, 「身体」

## はじめに

第2次世界大戦後、先進国は大規模な機械生産による生産システムに移り、肉体労働から知的労働中心になりオフィスワークに移るにつれて、知的労働の中身も高度化・複雑化し若者が肉体を鍛える時期に鍛えることをしなくなった。ここでは知的労働の偏向の中、若者の意識の背景にあるものを探り、若者の肉体と精神のバランスある成長を考えてみたい。「癒し」その根底には身体観の軽視が存在し、なおざりにした身体は意識的にその身体を使わなければ癒しでは「人間性の回復」を取り戻せない。その癒しと身体との関係を現代青年のその身体観の視点から本稿ではそのアプローチをする。

## I. 現代青年の危機的状況と癒しの必要性

### (1)現代青年の危機的状況

#### 1)現代青年の一般の特徴

以下の5つがあろう。①科学主義的・合理主義的なものの優先。②肉体労働の軽視・嫌悪。③スポーツ・運動・訓練嫌い。④将来の見通しが立たないこと。⑤都市型の生活の定着。以上から癒しの必要性が生じ以下に述べてみたい。

### (2)癒しの必要性・必然性

#### 1)癒しの必要性・必然性—癒しブームの背景

以下の3つがあろう。①ストレスが弱いかたちで自己に向かうもの。②ストレスが強いがたちで自己に向かうもの—この代表が拒食・過食やうつ病である。③ストレスが強いがたちで他者に向かうもの。

### (3)癒しの要素

#### 1)癒しの要素

以下の4つがあろう。①自然な感覚が働いていること。②自然との接触があること。③身体のリズムに合致すること。④時間・空間の全体的展望が開けていること。以上の説明から癒しのポイントは自然と身体にある。

## II. 身体観の変化とストレス—産業の発展から

ここでは身体に焦点をあて身体観の変化を産業論の視点から述べてみたい。

### (1)肉体労働を中心とする段階の身体観—「工業化以前・工業化の時代」

#### 1)肉体労働を中心とする段階の身体観の特徴

以下の3つがあろう。①仕事の中で鍛えられる身体。②日常のしぐさの中で育まれる身体。③自然の中に埋め込まれた身体。

#### 2)この段階に置けるストレスの問題

この生活からはストレスの存在は無いに等しい。  
(2)知的労働を中心とする段階の身体観—「重化学工業化・情報化時代」

#### 1)知的労働を中心とする段階の身体観の特徴

工業化以降は機械化の進展で身体を蔑ろにし肉体労働は激減する。そのためには意識して体力をつける必要があるそれらは以下の3つがあろう。

①知的労働の肉体労働に対して優位するときの身体観②標準化・画一化された身体観と健康観③自然と遊離した生活が一般化したときの身体観。

#### 2)この段階におけるストレスの問題

身体を使わず生活の中にもまで合理的な考え方が蔓延し、ストレスは救いようのない状況を産み出し癒しを必要とするストレスになるのである。

## III. 癒しと身体との関わり—舞踊の視点から

現代青年自身の身体にとって慢性的にストレスが蓄積される理由は上述の通りである。ここでは舞踊の視点からその可能性を探る。それらは以下の4つであらう。(1)生活における物語性・ストーリー性。(2)日常生活性—鶴見の「限界芸術」。(3)身体のリズム性と舞踊。(4)天然・自然を基礎にしたライフスタンスとその考え方、以上の視点を取り入れることに尽きよう。

## おわりに

現代青年は病んでいる。この解決策に癒しの要素と心身のバランスと時間と空間の全体的な展望という軸を新たに見出すことで自然な感覚と自然との接触の軸に加え、癒しの要素の全体像が浮き彫りにされた。以上から癒しのポイントは自然と身体にありこの解決策には盆踊りのような土に根ざした舞踊に癒しの可能性がある。以上述べてきたことで、工業化社会の病弊の根本的な構造については明らかにすることができたが、社会経済全体の中でどのような形で具体化していけるのかは不明で今後の課題としたい。

## 参考文献

- 1) 中野取『若者文化人類学』, 東京書籍株式会社, 1991.
- 2) 鶴見俊輔稿「芸術の発展」, 阿部知二等編, 『講座現代芸術』 勁草書房, 1960, 所収.
- 4) 薩佐久仁子稿「地域・文化と『限界芸術』—文化芸術の振興の視点から—」, 駒沢大学仏教経済研究所, 『仏教経済研究』, 第32号, 2003.
- 5) 庄司洋子・木下康仁・武川正吾・藤村正之編者『福祉社会辞典』, 弘文堂, 1999.
- 6) 立川武蔵編著『癒しと救い—アジアの宗教的伝統に学ぶ』, 玉川大学出版部, 2001.
- 7) 大村英昭『日本人の心の習慣—鎮めの文化論』, 日本放送出版協会, 1997.
- 8) 藤原成一『癒しの日本文化史』, 法蔵館, 1997.
- 9) 石井誠士『癒しの原理—ホモ・ケラーンスの哲学』, 人文書院, 1995.
- 10) 松井洋子『癒しのパフォーマンス』, メディカ出版, 1995.